

第160回（令和4年第3・第4四半期）
エイズ動向委員会 委員長コメント

【概要】

1. 今回の報告期間は、以下の約半年間
 - 令和4年第3四半期…令和4年6月27日～令和4年9月25日
(以下A、前年同時期を α とする)
 - 令和4年第4四半期…令和4年9月26日～令和4年12月25日
(以下B、前年同時期を β とする)
2. 新規HIV感染者報告数は(A)146件及び(B)157件 ((α)185件及び(β)183件)
3. 新規AIDS患者報告数は(A)50件及び(B)63件 ((α)78件及び(β)78件)
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は(A)196件及び(B)220件

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが(A)100件及び(B)115件
(新規HIV感染者報告数の(A)約68%及び(B)約73%)
 - 異性間性的接触によるものが(A)22件及び(B)20件
(新規HIV感染者報告数の(A)約15%及び(B)約12%)
そのうち(A)は男性19件、女性3件 (B)は男性18件、女性2件
 - 静注薬物によるものは(A), (B)共に0件
 - 母子感染によるものは(A), (B)共に0件
 - 年齢別では、20～40歳代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが(A)24件及び(B)37件
(新規AIDS患者報告数の(A)48%及び(B)約59%)
 - 異性間性的接触によるものが(A)11件及び(B)12件
(新規AIDS患者報告数の(A)22%及び(B)約19%)
そのうち(A)は男性10件、女性1件 (B)は男性9、女性3件
 - 静注薬物によるものは(A), (B)共に0件
 - 母子感染によるものは(A), (B)共に0件
 - 年齢別では、30～50歳代が多い。

【検査・相談件数の概況（令和4年7月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数は(A)18,132件及び(B)24,929件
(前年同時期確定値(α)14,050件及び(β)17,447件)

<内訳>

- 保健所におけるHIV抗体検査件数は(A)10,300件及び(B)15,227件
(前年同時期確定値(α)8,025件及び(β)10,454件)
- 自治体を実施する保健所以外の検査件数は(A)7,832件及び(B)9,702件

- (前年同時期確定値(α) 6,025 件及び(β) 6,993 件)
2. 保健所等における相談件数は (A) 16,696 件及び (B) 22,673 件
(前年同時期確定値(α) 13,009 件及び(β) 15,534 件)

【献血の概況（令和4年1月～12月）】

1. 献血件数（速報値）は、4,994,576 件（前年同時期 5,086,003 件）
2. そのうちH I V抗体・核酸増幅検査陽性件数（速報値）は 33 件（前年同時期 37 件）
10 万件当たりの陽性件数（速報値）は、0.661 件（前年同時期 0.727 件）

《まとめ》

1. 今回報告された新規H I V感染者報告数及び新規A I D S患者報告数は、前年同時期に比べ、第3四半期、第4四半期共に減少した。
2. これまでと同様の傾向ではあるが、今回の新規H I V感染者は20～40代、新規A I D S患者は30～50代の報告数が多い。また、10歳代から70歳代までの新規H I V感染者が報告されており、幅広い年齢層の報告がある。
3. 保健所等におけるH I V抗体検査件数は、前年同時期に比べ、第3四半期（+29%）、第4四半期（+43%）ともに増加した。また、保健所等における相談件数についても前年同時期に比べ、第3四半期、第4四半期ともに増加した。
4. 令和2年度、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の流行の影響による保健所等での検査控えで検査件数が減少したと考えられるが、令和4年度は検査件数が増加した。コロナ禍以前の水準にはまだ達していないが、回復傾向にあることが予想される。早期発見は、個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくことから、H I V感染リスクのある方は、今後も保健所等における無料・匿名の検査・相談を積極的に利用していただきたい。

《令和4年 HIV感染者・AIDS患者の年間新規報告数（速報値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は、令和4年の約1年間
2. 新規HIV感染者報告数は、625件（過去20年間で、20番目の報告数）
3. 新規AIDS患者報告数は、245件（過去20年間で、20番目の報告数）
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は870件（過去20年間で、20番目の報告数）

【感染経路・年齢等の動向（確定値）】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが437件（全HIV感染者報告数の約70%）
 - 異性間性的接触によるものが98件（全HIV感染者報告数の約16%）
 - 静注薬物によるものは0件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、20～40歳代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが121件（全AIDS患者報告数の約49%）
 - 異性間性的接触によるものが53件（全AIDS患者報告数の約22%）
 - 静注薬物によるものは0件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、30～50歳代が多い。

【検査・相談件数の概況（令和4年1月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（確定値）は73,104件（過去20年間で、18番目の件数）
2. 保健所等における相談件数（確定値）は67,009件（過去20年間で、18番目の件数）

《まとめ》

1. 令和4年の新規HIV感染者報告数は、令和3年より減少しており、6年連続での減少となった。
2. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者報告の感染経路は、性的接触によるものが8割で、男性同性間性的接触によるものが多い。
3. 献血時のHIV抗体・核酸増検査における10万件当たりの陽性件数は令和3年と比べて減少した。依然、陽性件数があることを踏まえ、HIV感染リスクがある方は、保健所等での無料・匿名検査や医療機関による検査を受けていただきたい。
4. 新規報告数全体に占めるAIDS患者報告数の割合は、依然として約3割のまま推移している。AIDS発症防止のためには、HIV感染後の早期発見が重要である。HIV感染リスクがある方は、早期発見のため、積極的に保健所等での無料・匿名検査や医療機関による検査を受けていただきたい。また、保健所及び自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、利便性に配慮したHIV検査相談体制を推進していただきたい。
5. HIV感染症は予防可能な感染症であり、適切な予防策をとることが重要である。また、AIDS発症防止のためには、早期発見と早期治療が重要である。感染予防と早期発見は、社会における感染の拡大防止にもつながる。国民の皆様には、梅毒などの性感染症を含め、保健所等での無料・匿名の検査・相談や医療機関による検査を積極的に御利用いただきたい。